

## 一本筋の通った学級経営

### 1 はじめに

学級経営について担任から相談を受けました。これまでの経験を元に話をしました。その内容を紹介します。

### 2 担任との会話

「学級経営ってどのようにすればいいのでしょうか？」

「どういうことでしょうか？」

「みんなが一つになって取り組むということがなかなかできません。」

「例えば、どんなこと？」

「例えば、かばんを机の横にかけないとか、水筒を指定の場所に置いていないとか、いつも誰かができなくて、みんなが一斉にできるということがないのです。」

「私なら、そんなことに力を入れやんな。何度言っても、どうしてもできない子がいるから。そんなことより、友だちを大切にしない言動や友だちを下に見たような言動はないか、人権に関することなどに力を入れて指導するけどなあ。」

「四月の学級開きでどんな話をしたん？」

「『愛』です。どんなことでも愛をもって、大きな心というか、広い心というか、そういった心でもって行動してほしいということです。もう一つは『楽』です。やっぱり楽しむときは大いに楽しんでほしいし、楽しいこともいっぱいやっていきたい。」

「それならば、今、学年部(教師団)で話題になっているバスの座席決めについて、誰一人として嫌な思いをしないように、愛、大きな心をもって席を決めてほしいとか、全員が楽しかったと思えるような学年行事にしたいので、一人ひとりが、愛をもって、友だちのことを思い合って行動してほしいといったことを伝えるといいのではないかなあ。学年行事が終わってから、愛ある行動はできたか、全員が楽しめたかといった話をするのではなく、学年行事を行う前にそういったことを話をして、学年行事の後でその振り返りをさせると良いと思う。すでに学年行事の取り組みが始まっているから、早速、愛と楽の話をしてはどうでしょうか。」

「夏休み前には、中体連の大会がある。一学期末に、先輩が全力で力が出し切れるように、愛ある行動とはどんなことかを考えながら行動してもらいたいとか、夏の大会後は、自分たちが中心になって部活動を行っていくのだから、後輩も自分たちも全員が楽しいと思える部活動にするにはどうすればよいかを考えようとかいった話をしてはどうかな。」

「二学期には学校祭がある。行事ごとの初めに『愛ある行動とは』と『全員が楽しむために』といった話をして、行事の後にはその振り返りをする。クラスの振り返りを集約したり、子どもたちの様子を見たりしたことから、クラスとしての課題を明らかにして、日々、または、次の行事でその課題を解決していくように取り組んでいく。こういったことを重ねていくと、先生が四月に話したことをもとにして一本筋の通った学級経営ができるのではないかな。」

「また、行事の前に、愛と楽についての先生の思いを学級だより書いたり、生徒の振り返りを紹介したり、さらには学級としての課題も書いたりするとよい。学級だよりを書くことで、自分が話したいことは何か、話す順序はどうすれば分かりやすいかななどが整理される。保護者に、担任が何を指して指導しているのかや、子どもたちの様子を知らせることができる。一年間の取り組みの様子が記録として残り、来年度以降の参考となる。私としては、ぜひ取り組んでほしいことです。」

「なるほど。よく分かりました。ありがとうございました。」

「今取り組んでいる学年行事が終わったら、また、話を聞かせてください。こちらこそ、ありがとうございました。」

### 3 終わりに

理解してもらえたようで嬉しかったです。